

令和5年度 第3回川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会次第

日 時 令和5年12月12日（火）午後2時～

会 場 多摩市民館4階第5会議室

1 開 会

2 部会長挨拶

3 館長挨拶

4 令和5年度第2回会議録について（確認）資料1

5 議 題

（1）令和5年度施設管理等について（報告）資料2

（2）令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について（報告）資料3

（3）今期のテーマについて資料4

6 その他

第4回専門部会日程について資料5

令和6年2月18日（日）多摩市民館4階第1会議室

・13時30分～（予定）多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会

・15時15分～（予定）多摩市民館専門部会

7 閉 会（副部会長挨拶）

■資料一覧

- 資料 1 令和 5 年度第 2 回多摩市民館専門部会摘録（案）（1～5 頁）
- 資料 2 令和 5 年度多摩市民館施設管理等について（6 頁）
- 資料 3 令和 5 年度多摩市民館社会教育振興事業（7～13 頁）
- 資料 4 令和 4・5 年度多摩市民館専門部会調査・研究報告書（案）
（14～23 頁）
- 資料 5 令和 6 年度 多摩市民館 市民自主学級・市民自主企画事業
企画案 募集のご案内（24～27 頁）

参考資料

- ・令和 2・3 年度川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会 調査・研究報告書
- ・多摩市民館だより
- ・事業等募集チラシ等

令和5年度 第2回川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会摘録（案）

- ・日 時 令和5年9月26日（火）10時～12時
- ・場 所 多摩市民館 第6会議室
- ・出席委員 羽深委員、小澤委員、米山委員、山本委員、安陪委員、三品委員、高梨委員
- ・欠席委員 小園委員
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 2名

多摩市民館事業の見学

会議の冒頭、令和5年度多摩市民館子育て支援啓発事業「子育てひろば」（多摩市民館5階児童室）を見学

1 開 会（星野係長）

2 部会長挨拶

3 館長挨拶

4 令和5年度第1回会議録について

資料1に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

5 議 題

(1) 令和5年度施設管理等について（報告）

資料2に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

(2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について（報告）

資料3に基づき篠原係長から説明。

(羽深委員)

大変多くの事業がある。事業の中には区役所が主体となって行うもののほか、外部の方がこういう事業を行いたいと提案されるものもあると思うが、そのような提案があった場合、どのような基準で実施の判断をしているか。また、区役所が新たに実施する事業、これまで継続して行ってきた事業の中において、区民の意見をどのように取り入れているのか。

(事務局：篠原係長)

外部の方から市民館活用の御提案をいただく事業として、市民自主企画事業や市民自主学級がある。市民館を利用している方やこれから利用したいと思っている方の想いを具現化して、市民館と一緒に実施していただく制度となっている。この事業の活用についてアドバイスをするほか、他の助成金制度や施設を御案内するなど、提案される方の想いや実現可能性なども考慮しながら、情報提供を行っている。こうしたやり取りをしながら、市民館と一緒に取り組めそうな事業について12月からの市民自主企画事業等に応募いただけるような流れを作るようにしている。

次に、区役所が主体となる事業についてだが、「たまたま子育てまつり」は、区民による実行委員会が実施する事業を区役所の地域課題対応事業として位置づけ、負担金を交付し、区役所も一緒になって子育てを応援する形で実施している。実行委員会の中で、より良い事業となるよう、毎年区民の皆さんと意見を出し合いながら進めているところである。

(柏原館長)

普段様々なサークル活動などを行っている方々がみんなで集まって交流したいということで、多摩市民館を利用して学びのフェアが開催されており、日頃の活動の発表などが行われている。また、生涯学習の活動をしている方々と区役所が連携する取組も積極的に進めており、昨年度から区民との協働の形態を模索している事業として、生涯学習交流集会がある。多摩区において生涯学習の取組を実施している方々と地域包括ケアシステムの構築を進める地域みまもり支援センターが連携して何かできないかということで、昨年度は「地ケアフォーラム」と「生涯学習交流集会」を一緒に開催したところである。

(山本委員)

資料1 1ページの「多摩区子育て支援会議」は、具体的にどのようなグループが参加しているのか。

(篠原係長)

参考資料として配布しているリーフレット「多摩区で子育て」に掲載されている団体の担当者が多く参加している。役所だけでなく民間、ボランティア、地域で子育て支援の活動をしている方、学校長などが参加されており、日頃活動する上での生の声を持ち寄り情報共有をしている。

(山本委員)

何名くらいが参加されているのか。リーフレットに掲載されている団体すべてが参加しているわけではないと思うが。

(篠原係長)

例えば、こども文化センターであれば1つの館が代表して参加していたり、保育園関係であれば、区役所の保育所等・地域連携担当職員や地域子育て支援センターのある園が代表して参加するなどしている。

(柏原館長)

子育てに関する情報については、「多摩区で子育て」の他にも、区役所の地域みまもり支援センターが作成している「多摩区地域子育て情報BOOK」や道路公園センターが作成している「多摩区公園BOOK」もあるので、そちらも御覧いただければと思う。

(3) 今季のテーマについて

資料4に基づき篠原係長から説明。

前回の会議の際に宿題となっていた今期の審議テーマのタイトルについて、資料4(13頁)のとおり、『区内全域への社会教育アプローチ強化の取組について～アウトリーチ・モデルの実践を通して～』という事務局案を作成したので御審議いただきたい。

前回いろいろな御意見をいただいたが、区内全体をフィールドとすることを踏まえつつ、多摩市民館へ来づらい方々への社会教育の提供、アプローチをどうしたらよいかを考える上で、昨年度議論いただいたモデルの実践という考え方を盛り込んだものである。

(高梨部会長)

社会教育アプローチとはどのようなイメージか。

(柏原館長)

言葉のすわりは悪いかもしれないが、「社会教育アプローチ」で一括りの言葉というよりは、行き届かない地域へのアプローチを強化していきたいという考えである。

(三品委員)

それならば、「社会教育」という言葉を前に持っていき、『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』とする方がすわりが良いのではないかと。

(高梨部会長)

「社会教育」という言葉のおさまりの良いのは「実践」の前ではないかと。

(三品委員)

「アウトリーチ」とは、市民館にアクセスしにくいところへの取組を強化していくという考え方でよいか。

(柏原館長)

そのとおり。市民館の中だけで事業を行うのではなく、アクセスの悪い地域に向けた取組や情報を行き渡らせる取組を強化していくものである。

(篠原係長)

タイトルについていろいろな御意見をいただいているが、そもそもこの会議は社会教育委員会議であり、社会教育をテーマに話し合いを行っていることは多くの方に御理解いただけると思うので、タイトルから「社会教育」という言葉を取り、『区内全域へのアプローチ強化の取組について』とするのはいかがかと。

(三品委員)

「社会教育」という言葉は残しておいた方がよいと思う。主語がないと何を強化しているのか分かりづらくなってしまう。『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』とするのが良いのではないかと。

(高梨部会長)

タイトルを付けるとき、どうしても「の」が多くなってしまっているので、読み手に分かりやすくする方がよい。「社会教育」という言葉を入れるのであれば、『社会教育的実践を通して』などといった使い方も考えられる。無理に入れなくてもよいとは思いますが。

(柏原館長)

一旦、「社会教育」という言葉を一番前に持っていく三品委員の案『社会教育の区内全域へのアプローチ強化の取組について』について確認したい。

(三品委員)

何をするのが最初に分かるので、この案が良いと思う。

(柏原館長)

「の」が多いので、「取組」という文言を取り、『社会教育の区内全域へのアプローチ強化について』とするのはいかがかと。

(篠原係長)

副題で掲げる「アウトリーチ・モデルの実践」が実施すべき取組のことを言っているので、タイトルから「取組」という文言はとって良いと思う。

(米山副部長)

区内全域への社会教育のアプローチを強化するという元の案の方が良いと思う。今期のテーマは元々、区内で市民館を使いにくい人のところへアプローチしていく、というところから始まっているので、「区内全域」という文言が前にある方が良い。いろいろな方に市民館を上手く活用してもらえるよう考えていくべきである。

(高梨部会長)

前期は、タイトルを『市民館と地域の連携』と端的にして、副題の『市民館の認知度向上と地域資源の活用について』で内容の説明をしている。今期の報告書において一番言いたいことをタイトルで示せるとよいと思う。

(三品委員)

私は「社会教育」という文言を頭に入れたいと思っており、対案として『社会教育のアウトリーチ・モデル～区内全域へのアプローチ強化について～』という主題と副題を入れ替える案ではいかがか。

(柏原館長)

この案だと、やりたいことと取り組むことが逆になってしまうかと。やりたいこと、目指すことはアプローチを強化していくことなので、主題と副題は逆にならない方が良いと思う。地域に出向いて講座などを行うというアウトリーチの仕方もあるが、講座の開催自体を目的とするのではなく、こうした活動が広がることで市民館の認知度が上がり、情報が行き届きやすくなる、皆さんの中で市民館は良いことをしていると期待してもらえるようになることを目指しているものである。

(三品委員)

最終的に出前講座などのアウトリーチ・モデルを作りたいということではないのか。その目的として、地域全体へのアプローチを強化していくため、ということではないのか。

(柏原館長)

モデルを作ること自体が目的というよりは、モデルを実践していくことにより、いろいろな課題や地域の実情などやるべきことが見えてくるので、目指すべき目標に向けて我々も様々なことを学んでいきたいと考えているものである。

(高梨部会長)

アウトリーチ・モデルは一つのツールであり、その結果として市民館の認知度向上や市民館・市民が繋がるパイプ作りを目指すもので、その思いが「アプローチ強化」という言葉に表れていると思う。

(三品委員)

実際にやりたいことだけでなく、それを通してどうしていくかということも考えて出していくということか。そうであれば、元の案に戻した方が良い。

(柏原館長)

あとは、「社会教育」という言葉をどうするかだが、その点は次回、もう少し報告書のまとめ作業が進んでから改めて御検討いただきたい。

(安倍委員)

多摩区全域でどこでも講演会や出前講座を聴ける場所が多くある、その中心として機能していくのが市民館であるということ言えばよい。

(米山副部長)

今期のテーマは、市民館を皆さんに使ってくださいとアピールする狙いもある。出前などの取組を通じて知名度が上がれば、アクセスが不便でも市民館に来てくれるようになるかもしれない。

(高梨部会長)

市民館という存在について、あそこに行けば面白いことがありそう、自分にとってためになることがありそうと認識が広がれば、生涯学習・社会教育の発展にもつながっていくと思うので、そういう方向性でまとめられるとよい。

(篠原係長)

次に、モデルとなる取組をどのように進めているかという報告も兼ねて報告書の内容案を御確認いただき、その方向性について御議論いただきたい。

資料4のP 14～19に基づき篠原係長から説明。

(三品委員)

P 15「Iはじめに」において、今期のテーマの目指すところである「区域全域へのアプローチ強化」という言葉が使われていない。様々な方が社会教育にアクセスしやすくするという観点を一言でも載せた方がよい。

(柏原館長)

この後、報告書を作成する中で、その視点を盛り込んでいきたい。

(高梨部会長)

今後モデルとなる講座を実施することだが、アンケートは取るのか。

(篠原係長)

実施する予定である。

6 今年度の日程について

資料5に基づき星野から説明。次回専門部会の日程を12月12日(火)14時～に決定した。

7 閉会(米山副部会長)

令和 5 年度多摩市民館施設管理等について

1 施設維持補修工事

(1) 多摩区総合庁舎外壁改修工事

令和 4 年 7 月 27 日から令和 6 年 1 月 31 日まで (予定)

・現場作業は令和 5 年 12 月中旬に終了予定

・駐輪場の運用再開

第 1 駐輪場 (庁舎東側) : 令和 5 年 12 月 11 日再開

第 2 駐輪場 (庁舎南側) : 令和 5 年 12 月 18 日再開

※臨時駐輪場 (庁舎北側出入口前) : 令和 5 年 12 月 10 日運用終了

臨時駐輪場 (庁舎北側オートバイ用) : 令和 5 年 12 月 17 日運用終了

[庁舎北側外階段のバリアフリー対応]

・各段を容易に識別できるよう、段鼻に着色 (令和 5 年 11 月完了)

・2 階フロアまで手摺を延長 (令和 5 年 12 月完了)

(2) 多摩市民館大ホール舞台等コンセント交換工事 (令和 5 年 11 月完了)

経年劣化により破損した大ホール各所のコンセント差込口を交換しました。

(3) 多摩市民館 2 階トイレドア等建具補修工事 (令和 6 年 1 月頃実施予定)

ア 2 階トイレドア等建具補修

男性用・女性用トイレ入口扉は、傾きが生じ、扉が完全に閉まらないなどの不具合が生じているため、ヒンジを交換して開閉に係る不具合を解消します。

イ 3 階体育室アルミ製両開き窓ストッパー補修

窓の開き具合を制御するストッパーが窓から外れ、機能しなくなっているため、補修・調整し機能を回復する。

令和5年度多摩市民館社会教育振興事業

I 社会参加・共生推進学習事業

1 識字学習活動～日本語学級～

日常生活に必要な日本語の会話・読み書きの基礎学習の支援をし、学習者とボランティアが学び合う関係づくりをとおして、多文化共生社会の実現をめざす。

(1)水曜・午前コース 令和5年4/5～令和6年3/13(年間継続)

学習支援グループ:ボランティアグループ「多摩にほんごの会」

《保育》保育ボランティアグループ「多摩保育グループ」

(2)金曜・夜間コース 令和5年4/7～令和6年3/15(年間継続)

学習支援グループ:ボランティアグループ「たま語」

2 識字ボランティア研修

識字学習活動に参画するボランティアの育成と資質の向上を図る。

(1)日本語ボランティア研修(入門研修)

地域で活動する日本語ボランティアの育成を図る。

5/10～7/26 水曜日午後(全10回)

3 障がい者社会参加学習活動 (青年教室)

地域での体験活動や交流をとおして障がいのある人の社会参加を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき共に生きる地域社会の実現をめざす。

5/27(土)～3/16(土) 月1回土曜【年間継続】

参加登録者 30人(5・6・7月は午前中のみ活動)・ボランティア 18人

5月:オリエンテーション・自己紹介 6月:アート体験・コースター作り① 7月:アート体験・コースター作り① 9月:全体会 10月:バスハイク① 11月:バスハイク② 12月:お楽しみ会 1月:料理教室① 2月:料理教室② 3月:1年の振り返り

II 市民自治基礎学習事業

1 平和・人権・男女平等推進学習

憲法・教育基本法の理念に基づき、世界の平和及び人権の尊重、性による差別や人権に関する問題解決に向けた学習機会を提供し、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成を目指す。

6月企画運営委員会が立ち上がり、企画検討

12/17(日)～3/3(日)13時半～15時 全7回 多摩市民館、フィールドワーク(ANIMAMALL〈アニマモール〉かわさき)

2 青少年教室事業

小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。

「テレビ番組の裏側をのぞいてみよう ～やってみよう☆アナウンサー体験～」

小学4～中学3年生を対象に、テレ朝出前講座でアナウンサー体験や現役のテレビ局員による講座を開催。

8/27(日) 全1回 多摩市民館 定員 40人(保護者同伴可)

3 シニアの社会参加支援事業

地域活動への参加や地域との関わり方等についての啓発事業として実施し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。

「とことん『幸』^{こう}齢者!老がいとは言わせないよ」

企画運営委員会「チームとことん！」(公募委員7人)と協働して実施。新規企画運営委員1人『幸』齢者とは、「『地域で輝いている一』『地域に必要とされている』生きがいを持って毎日の生活を送り、幸せに年を重ねる」人のこと。『幸』齢者になるきっかけがつかめる講座。

10/5、10/19、10/26、11/2、19 10:00～12:00 全5回 木曜日 定員 20人

会場: 生田出張所大会議室、Anker フロントタウン生田、王禅寺エコ暮らし環境館

4 高齢者セミナー

高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期をおくるための仲間作りの場の提供と支援をする。

実施時期 11/25、12/1、8 全3回 定員 30人

会場: 長沢自治会館

5 家庭・地域教育学級

子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し親として市民としての学びを支援する。

I期 「子育て講座～0歳児と楽しく過ごそう～」 11/7(火)、11/21(火)、12/2(土)、12/5(火)、12/19(火)10:00～12:00、12/2のみ 13:30～15:30 全5回 定員 15組 親子同室 会場: 多摩市民館 体育室

II期 冬季 保育つき(予定)

6 市民館保育活動

親等の学習活動への参加を支援し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。

【識字学習活動(昼)、家庭・地域学級 I・II】

(識字学習活動(昼)の保育は休止中)

保育グループ: 多摩保育グループ

7 PTA家庭教育学級

PTAが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な成長に向けた学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。(各単位PTAの企画による)

説明会 4/27(火)10:00～12:00 (小・中学校)

報告会 2/1(木) 10:00～12:00(小・中学校)予定

8 子育て支援啓発事業

地域の子育てに関し、情報提供・フリースペースを提供し支援イベントを行う。

企画運営:子育てを考える会「グレープ」

「子育てひろば」4～3月 おもに第2・4火曜(8月を除く) 10:00～12:00 多摩市民館

対象:0歳～就学前の子どもと親

「外国人の子育てひろば」4～3月 おもに第2金曜(8月を除く)10:00～12:00 多摩市民館

対象:外国人家庭親子

Ⅲ 市民学習・市民活動活性化学習事業

1 市民自主学級

区ごとに、企画提案会を開いた後の選考委員会の選考結果に基づき、市民グループが市民館との協働により地域の問題等に関する継続的な学習の場を設ける。

	受託グループ名	事業内容
学級1	個人提案	<子育て・地域活動> 川崎市多摩区の副読本を作る 現在、市で作成されている小3向けの社会科副読本「かわさき」は、内容は充実しているものの、市というエリアの広さから多摩区についての内容を多く扱えない現状がある。多摩区に住んでいる子どもたちにとって、より多摩区について知り、楽しんで学習できるような補助教材を作成する。 5/15 から企画運営委員を募集中 提案者含め6名の応募 8/26～企画運営委員会 10月取りやめの申請⇒承認

2 市民自主企画事業

区ごとに、企画提案会を開いた後の選考委員会の選考結果に基づき、市民グループが市民館との協働により地域特性に応じた学習・文化・芸術活動の場を設ける。

	受託グループ名	事業内容
事業1	ふらっとカフェを広める会	<p><まちづくり> ふらっとカフェ講座:みんなでトライするプログラム&ふらっとカフェ運営</p> <p>健康な生活に必要な「会話」の減少の抑制とより豊かな人生を求める「意識」の拡大を目的にカフェを運営する。</p> <p>講師を招き趣味・特技を通じて「伝えたい、聞いてほしい」を体験できる場を提供する。講座として地域の人材を活かした講師を招き、体験・視野を広げる。</p> <p>みんなでトライするプログラム:「歌と表情筋トレーニング」10/3、11/7 火曜日 13:30～15:30 全2回 定員20人 多摩市民館大会議室、講堂</p> <p>みんなでトライするプログラム:「フレイル予防講座」2/6 火曜日 13:30～15:00 全1回 定員20人 多摩市民館大会議室</p> <p>ふらっとカフェ:5/9、6/6、7/4、9/5、10/3、12/5、1/9、3/5 火曜日 13:30～15:00 多摩市民館第1会議室、多摩市民館大会議室</p>
事業2	TAMA VOICES	<p><文化・芸術活動>オトナリの音</p> <p>市民参加型アートプロジェクトを企画し、地域の方の表現したいという声を収集し、何かを表現したいという人をサポートし、豊かな文化的交流の場を創出したいと考えている。</p> <p>10/15、29、11/12、26、12/10 多摩市民館大会議室ほか 日曜日 主に 13:30～16:30 全5回 定員20人(最終回は発表会で観覧者を募集)</p>

3 PTA活動研修 ～よりよいPTA活動のために

- (1) 学年学級委員会(小・中学校)1回
- (2) 校外委員会(小・中学校) 1回
- (3) 広報委員会(小・中学校) 1回
- (4) 成人委員会(小・中学校) 1回
- (5) 役員研修会(小・中学校) 1回

【共催】多摩区PTA協議会

5/18(木)～6/15(木) 全5回 10:00～12:00

4 市民活動エンパワーメント研修

市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供することにより、市民が自ら考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民全体の地域づくりを支援する。

「市民活動・生涯学習活動相談ボランティアの人材養成講座」

10/3(火)～10/31(火) 10:00～12:00 全5回 定員20人

5 市民講師活用事業

様々な分野において豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるよう育成・支援を行う。また、先輩市民の講演例を参考に自らのスキルを振り返りブラッシュアップするとともに、今後の活動計画の策定支援(入門編)と前年度本講義参加者への活躍の場の提供支援(実践編)をする。

＜入門編＞7月1日(土)、8日(土)、22日(土)、29日(土) 全4回 14時～16時 参加10人
(満足度3.3[4点満点] / 講座を知った1位:ホームページ[50%]、2位:市民館だより[25%])

＜実践編＞8月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土) 13時～17時 計10講演 参加85人
(満足度3.5[4点満点] / 講座を知った1位:ちらし[16.4%]、4位:市民館だより[6.9%])

会場:多摩市民館

6 リカレント教育推進事業

市民の学び直しの学習機会を提供することにより、市民自身が生涯にわたり学び続けていく自己啓発活動等の促進を図る。テーマの候補として、近年、情報が複雑多岐で多様化する中で、ことばの氾濫やコミュニケーションの欠如等が顕在化しているかと思われ、全世代を対象に、日本語の特に「話しことば」についての再考、再認識について、取り上げる。11/4(土)、11(土)、18(土)14時～16時開催、受講者数30人。

7 生涯学習交流集会

いきいきとした多摩区の社会教育の展開に向け、市民と職員が率直な意見交換をし、市民主体の地域の生涯学習を創り出すことをめざす。

8 「地域の寺子屋事業」情報交換会

寺子屋コーディネーターや寺子屋先生など「地域の寺子屋事業」に携わる者のネットワーク化や事業連携を通じ、寺子屋事業の活性化、地域教育力の向上を目指す。

年1回 開催未定

9 学習情報提供・学習相談事業

市民の学習と活動を支援や様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し公開・提供。学習についての情報照会・相談を受け対応する。

「生涯学習相談コーナー」運営:多摩生涯学習相談ボランティアの会

市民の学習と活動を支援するために、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、提供すると共に、生涯学習相談員により市民からの情報照会・相談を受け対応する。

【年間継続】第2・4週火曜日 10時～12時

IV 市民と行政の協働・ネットワーク学習事業

1 課題別連携事業

(1)第22回多摩ふれあいまつり

6/18(日) 10:00～15:00

会場:多摩市民館他

「バリアフリー わたしとあなたとこの街と」をテーマに、多摩区で福祉活動をしているグループや福祉に関心のある人たちが、地域で行っている活動に関する情報を発信し、「バリアフリーのまちづくり」の理解と啓発をめざすまつり

主催:たまわかくさ(多摩区当事者・ボランティア連絡会)、多摩ふれあいまつり実行委員会

(2)たま学びのフェア 2024

多摩市民館で活動している団体等による学びの場を広げるイベント

3/9(土)、10(日) 10:00~16:00 会場:多摩市民館 【主催】たま学びのフェア実行委員会

(3)多摩区子育て支援会議

9/7(木)、2/8(木) 全2回 会場:多摩市民館

多摩区内の子育て関係機関、支援団体、市民グループによる会議

2 行政区・中学校区地域教育会議推進事業 川崎市委託事業

令和5年度活動日程

・総会:6/7(水) 議長:高森 康広

【多摩区地域教育会議・子ども会議】

・実施日 未定

【多摩区地域教育会議・教育を語るつどい】

・10/14(土) 9:30~12:30 会場:多摩市民館 大会議室

【多摩区地域教育会議・広報紙「ちえの輪」発行】

年3回

3 文化団体連携推進事業

(1)春の文化祭 いけばな展 4月、バレエコンサート 4/23(日) 多摩区文化協会

(2)多摩区文化祭 いけばな展 10月、芸能の部 10/28(土)・29(日) 多摩区文化協会

(3)文化講演会 10月頃 多摩区文化協会(多摩図書館共催)

(4)文化サロン 7/1~9/1 文化祭俳句募集 10月表彰 多摩区文化協会

9月頃 座学「多摩区郷土史入門講座」多摩区文化協会(稲田郷土史会、多摩図書館共催)

1/29(月)座学「多摩区の歴史 明治・大正」多摩区文化協会

(5)文化教室 7/3(月)9(月)「健康バレエ・春」多摩区文化協会

8/5(土)6(日) 夏休み鉄道ジオラマとミニ運転会 多摩区文化協会

8月頃 夏休み芸能体験教室「琉球舞踊、他」多摩区文化協会

11/27(月)12/3(日)「健康バレエ冬」多摩区文化協会

12/25(月) いけばな 多摩区文化協会

2/18(日) 春のいけばな 多摩区文化協会

4 地域課題対応事業 ※区役所費による事業

「第21回たまたま子育てまつり」 9/17(日) 9:45~15:00 会場:多摩市民館

主催:たまたま子育てまつり実行委員会

地域で子育てを支える環境づくりを目的とした子育てに関する企画やステージ・情報提供等

5 インターンシップ受け入れ

9～11月東京都立大学 2名受け入れ

9月1、3日 3大学連携事業(多摩区役所企画課所管)として受け入れ:日本女子大学1名

V 現代的課題対応学習事業

1 現代的課題学習事業

現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援する。

市制100周年記念プレ事業

「はじめての絵本づくり応援講座」10/5、10/12、10/26、11/9、11/16、11/30

10:00～12:00 木曜日 全6回

定員 15人→21人に増員 会場:多摩市民館 第1会議室、実習室

公開講座「伝わる文章のコツ講座」10/12 10:00～12:00 定員10人→17人に増員

会場:多摩市民館 第1会議室→多摩区役所 601 会議室に定員を増やすため変更

VI 学習環境整備事業

1 広報・刊行活動

多摩市民館だより 年6回(5/1、7/1、9/1、12/1、2/1、3/31)

6,500部作成、各町内会・自治会回覧及び各公共施設にて配布

2 情報機器等整備貸出活動

川崎市視聴覚ライブラリーと連携し視聴覚教材を利用した学習ができるよう視聴覚機器及び教材を貸出する。(市民館ホームページ、学習相談・学習情報提供等により広報)

令和4・5年度
川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会
調査・研究報告書

区内全域への社会教育アプローチ強化について
～アウトリーチ・モデルの実践を通して～

令和6（2024）年3月

川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会

目 次

I	はじめに 今期のテーマ設定の経緯について
II	モデル地区の設定
III	講座の企画検討・実施に向けた準備
IV	高齢者セミナーの開催
V	開催結果・来年度以降
IV	まとめ
参考資料		
	審議経過
	委員名簿
	川崎市社会教育委員会議規則 ～抜粋～

I はじめに

今期のテーマ設定の経緯について

今期のテーマを「
」とした。テーマ設定に至る経緯は次のとおりである。

前期の報告書では「市民館と地域の連携（市民館の認知度向上と地域資源の活用に向けて）」というテーマで検討され、市民館の認知度についての現状と課題・今後の取り組みとして、「市民館は区内に1か所であり、居住地によっては身近に感じることができない。前期の調査・報告書にもあるが、こども文化センターや老人いこいの家、また、学校開放施設などを活用した地域での活動により、市民館活動の周知と利用促進を図る」(P3)ことが挙げられた。また、地域資源の活用についての今後の取り組みとして、「これまで市民館を利用していなかった人や、距離や交通手段等の事情により市民館を利用しづらい人も多いと思われることから、こども文化センター、老人いこいの家、学校開放施設などに市民館が出向き、地域で活動する団体や人々と協力しながら、事業や講座等を展開していくことが望まれる」(P3)ことも挙げている。

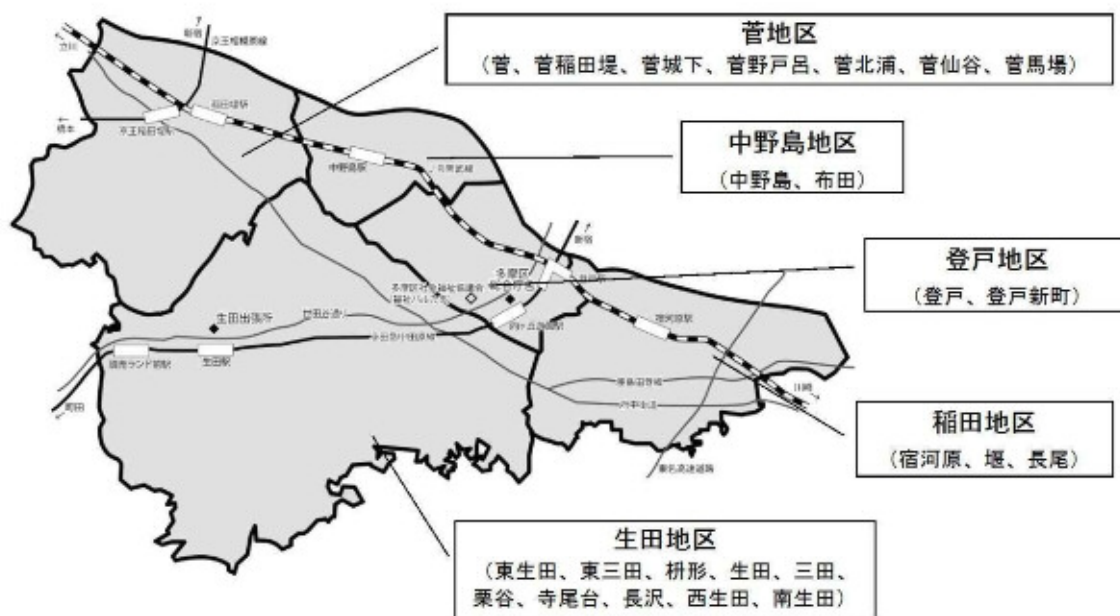
市としては、令和4年8月に、市民からの多様なニーズへの確かつ柔軟に対応し、従来からの事業・サービス水準をしっかりと維持しつつ、新たな取組を展開していくために、「今後どのような管理・運営の手法が、その実現のために適しているのか」、「生涯学習推進の拠点として最も市民ニーズに沿った市民館・図書館であるためにどうしたらよいのか」という視点に立ち効率的・効果的な管理運営手法を検討するものとして、「市民館・図書館の管理・運営の考え方」が策定された。その中でも、市民館は「『学び』を社会のいたるところで多く展開し、豊かな地域づくりを支援」し、「社会教育を通じ『人づくり』、『つながりづくり』、持続可能な『地域づくり』といったまちづくり施策の推進役としての機能が求められている」(P4)るとしている。

以上を踏まえ「
」を今期のテーマとした。

II モデル地区の設定

近年、多摩市民館の社会教育振興事業は、ほとんど市民館を会場にしており、一部生田出張所で開催しているもののほかの会場に出張して開催している実績がない。今回のテーマに基づき、一気に区内様々な場所で事業を実施することは現実的ではないため、まずはモデル地区を設定し、出張講座を開催するに当たっての課題の洗い出し及び開催したあとの効果検証を行い、それを踏まえながら今後について考えることとした。

モデル地区の設定に当たり、多摩区内での地域づくりの取り組みとして多摩区役所が行っている地域包括ケアシステムでは5つに地区割りをしている（下図）。



登戸地区は多摩市民館がある地区なので、主にほかの4地区について、人口、年齢別人口割合、高齢者施設・こども文化センターなどの施設の分布などを比較し、出張した場所で参加者が集まるかも踏まえ、人口が多い生田地区を、本研究のためのモデル地区として設定した。

Ⅲ 講座の企画検討・実施に向けた準備

1 地域特性に応じた講座テーマと出張講座の会場の検討

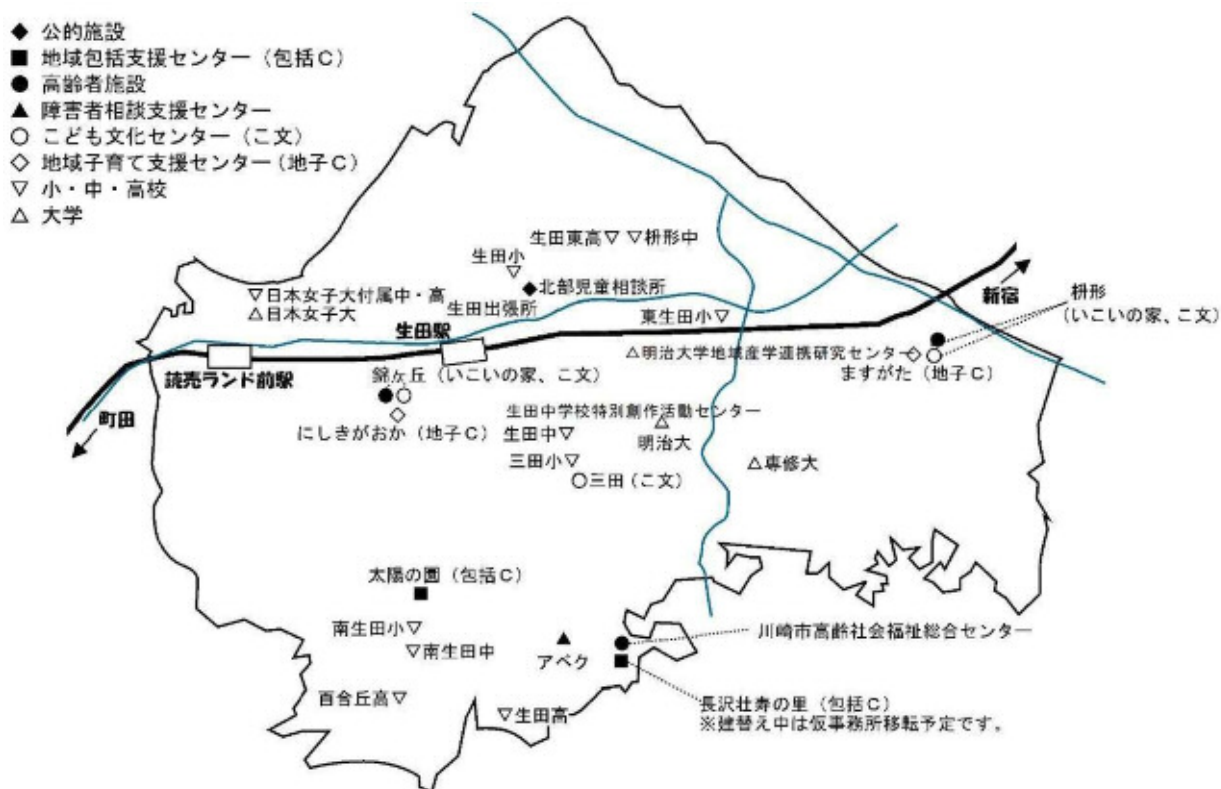
生田地区での出張講座を開催するに当たり、まず、どのような講座を開催するかを検討した。「市民館・図書館の管理・運営の考え方」に、「区役所においては、『川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン』（平成 27 年 3 月）や『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』（平成 31 年 3 月）に基づく地域づくりに向けた事業展開をしており、地域における生涯学習支援はこれらの取組みと連携して地域づくりを展開する必要がある」（P5）としていることを意識し、地域包括ケアシステムの取組みとして多摩区役所が作成している「多摩区地区カルテ生田地区」にて、区全体における生田地区の特徴、生田地区の中でも町丁ごとの人口などの統計データや施設などの地域資源、地域活動などを確認した。生田地区は、特に高齢化率が高いことが読み取れたので、社会教育振興事業の中で世代別学習活動として実施している「シニアの社会参加支援事業」または「高齢者セミナー」に当たりをつけた上で、区役所地域みまもり支援センターの生田地区担当職員（保健師等）と意見交換を行い、多摩区役所地域みまもり支援センターでは、近年、多摩区の現状を踏まえ、高血圧予防に力を入れていることがわかった。区役所の取組みに連動することもあり、血圧対策に関する講座を開催することにした。

テーマの検討とともに、出張講座の会場の検討も同時に行っていた。生田地区で、市民館からのアクセスが悪い地域の区民を対象に会場を考えていくことにして、町丁で言うと生田 4 丁目以降、栗谷、寺尾台、長沢、西生田、東三田、三田、南生田にまず絞った。生田出張所では毎年「シニアの社会参加支援事業」を開催しているので、生田出張所にも行きにくい地域を中心に、「高齢者セミナー」の対象者である 65 歳以上の人口割合が多く、高血圧の区民の割合が多い地域で、20～30 人以上の人が一堂に会する場所があるといった条件で検討を進めたところ、一旦は南生田小・中学校の地域開放施設が使えないか考えた（次ページの図を参照）。

本市では、市立小・中学校・特別支援学校の校庭や体育館、特別教室を、学校教育に支障のない範囲で、市民のスポーツ・レクリエーションや生涯学習・市民活動の場として開放している。南生田小学校（南生田 3-1-1）で利用できる特別教室は音楽室、南生田中学校（南生田 3-4-1）で利用可能な特別教室は図書室。それぞれ学校に問い合わせたところ、音楽室には楽器が置いてあること、図書室にも書棚があるなど制限があることが分かった。

講座のテーマが血圧対策としており、健康体操の実習は必須と考えていたこともあり、会場として南生田小・中学校より適した場所を探すことにし、ほかに 20～30 人が一堂に会する、地域の住民が行きやすい場所を考えたところ、町内会・自治会の会館に着目。この地域の町内会・自治会は複数あるが、

南生田のほとんどと長沢をエリアとする長沢自治会が面積が最も大きく、自治会館も条件を満たしているため、長沢自治会館を借りて講座を実施する方向を決定した。



2 講座の企画の詰めと実施に向けた準備

長沢自治会館で開催できるか下見をするために、6月に会館で開催された長沢まちづくり協議会のイベントを見学させていただいた際に、長沢まちづくり協議会の関係者に会館で高齢者向けの血压対策の講座をやるかと考えていると話したところ、長沢まちづくり協議会が秋に行おうとしているイベントと連携して講座を開催しないかと提案を受けた。昨年開催した同イベントでは民生委員さんと地域包括支援センターが、握力測定やロコモティブチェック、介護相談を実施したそうで、2団体と一緒に会館を使って企画してはどうかと話をいただいた。同イベントは昨年2日間で1000人以上も集客しており、一方で市民館講座をアクセスが悪い場所で開催することによる参加申込数の心配があったため、イベントとの連携を前提に学習計画を立てていった。その後、関係者と協議しながら細部を詰めていき、次ページの学習計画書が完成した。

令和5年度多摩市民館高齢者セミナー 学習計画書

- 主題 高血圧に悩んでいる人・心配な人が、高血圧を予防・改善していつまでも元気に暮らす～多摩市民館へのアクセスが悪い人を対象に～
- 学習目的 市民館へのアクセスが悪い、多摩区の南生田・長沢の地域は、高齢化率も高血圧の方の割合も高い地域である。
講座参加者に、高血圧対策を行うことが今後の人生にどのようないい影響を与えるか理解してもらい、地域で生き生きと暮らすきっかけにしよう。
- 対象(定員) 概ね65歳以上 30名(先着) 第1回目は長沢オータムフェスタ来場者も参加できる公開講座
- 日程(回数) 3回
- 会場 長沢自治会館(多摩区長沢4丁目10-5)
- 広報計画 市政日より、(南生田・長沢地域)薬局 特別に出向くこと、「ほとんど」の人が南生田になること、なぜ隣の藤生区が平均寿命日本一なのかを講演させる

	開催日時	学習課題	学習内容	学習のねらい	学習方法	講師(敬称略)
1	11月25日(土) 11時～15時 長沢オータムフェスタ 同日開催	自分の健康状態を知る	オリエンテーション (明治安田生命に協力いただき)機器を使って自分の健康状態を知る。 数値を基にした健康相談	自分の現状を把握し、改善すべきところを延ばすところの目安をつけるとともに、今後の講座が自分にどのように役に立つのかを理解し、学習意欲を醸成する。	実習	明治安田生命川崎支社 協力:生田第2地区民生委員児童委員協議会、長沢辻寿の里地域包括支援センター、多摩区食生活改善推進員連絡協議会
2	12月1日(金) 14時30分～16時30分	高血圧対策の効用を学習する。	高血圧がどうして問題なのか、高血圧対策がどのように良い効果をもたらすか資料を使って説明。 さらに、体の部位ごとの機能を、健康体操を実演しながら理解する。	高血圧対策がどれだけ今後につながるかを理解し、「動く」モチベーションを受講生に気づいてもらう。	講義 実習	肥満予防健康管理士・認知症予防指導員 中山 快晴 多摩区役所地域支援課 保健師
3	12月6日(金) 14時30分～16時	南生田・長沢地域で開催している活動等の紹介を通して、地域での活動場所・居場所候補を知り、つながるきっかけとする。	実際に南生田・長沢地域で活動している健康体操を体験したり、ほかの活動事例を知る。 また、川崎市健康ポイント事業(かわさきTEKTEK)が始まったことを紹介する。	講座のあと、引き続き血圧対策の活動を行えるように、地域で行われている活動を紹介して、続けるきっかけを作る。。	講義 実習	職員(市民館)かわさきTEKTEK 紹介 多摩区ウオーキング推進委員会 会長 山本 隆 南生田4丁目公園体操 世話人 福島 通文 さわやか体操(長沢自治会館) 運営 社会福祉法人白山福祉会 岡崎 寸見江

第1回は、ながさわフェスタ in 諏訪社(学習計画書作成後、イベント名称変更)と同日開催で会館で「健康フェスタ」と題し健康測定を行い、自分の健康状態を確認したあと、第2回は測定結果を意識しながら保健師による血圧対策の必要性を講義してもらい、体の使い方を意識した健康体操の実演、第3回は今後体を動かす機会を紹介する構成にした。講座終了後も、講座をきっかけに新しい活動場所、知り合いを参加者に提供することを意識して、3回連続講座とした。第1回では、講座の申込をしていない人も、2回目以降申込を行えるようにし多くの方が講座に参加できるような配慮も行った。

広報をどのように行うかも課題だった。多摩市民館と違い、限られた申込候補者の中でどこまで多くの方を申込につなげるか。対策の一つ目として、高血圧の方は医者にかかっている方も多いと考え、多摩区健康づくり推進連絡会議に本講座の広報協力を働き掛け、多摩区薬剤師会から協力いただける可能性を見出した。結果、南生田・長沢地域の5か所の薬局にポスター貼付の協力をいただいた。対策の二つ目として、ながさわフェスタと連携した広報を展開することを意識した。長沢商店会と長沢まちづくり協議会の協力で、新聞折り込みで展開するながさわフェスタのチラシに、会館で行う健康フェスタについても掲載いただくことができた。これとは別に、健康フェスタを中心としたチラシを作成いただき、新聞折り込みをしていただいた。タウンニュースにもながさわフェスタとともに掲載された。そのほかにも、普段の広報として、市民館だより・市政だよりに掲載するとともに、生田地区で今年も開催した多摩市民館シニアの社会参加支援事業などで、受講生に高齢者セミナーのチラシを配布するなど積極的に展開した。⇒見やすく工夫します。

開設の準備として、会場への資材の搬出入も普段と違って注意を要した。スクリーンやプロジェクタ、マイクアンプを車両で持ち込む必要があったが、会場の駐車場の支払いをどうするか課題となった。長沢自治会や隣接の諏訪社に配慮をお願いすることもできたが、モデル事業の準備でどのようなことが必要かも、今後継続的に様々な場所にアウトリーチを展開するときに生きてくると思われたため、あえて特別な配慮をお願いせずに済む方法を模索した。

IV 高齢者セミナーの開催

0 募集開始

募集開始に当たり、申込事項にお住まいを「多摩区长沢、多摩区南生田」という形で任意で申告いただけるようにして、どのような地域から応募があるかある程度分かるようにした。11月15日から応募を受付け始めたところ、多摩区東生田、麻生区王禅寺などいろいろな地域から応募が9件あり、遠いところでは世田谷区からも申込があった。定員が30人のところ9件ではあったが、第1回で同時開催

するながさわフェスタに多くの方が来場され、その中から現地での申込が期待できたので、この時点ではそれほど心配はしていなかった。いつも市民館で開催している講座と同じく、講師、関係者と打合せを行い、必要な機材や流れなどを確認して11月25日の第1回に臨んだ。

1 11月25日第1回

2 12月1日第2回

3 12月8日第3回

V 開催結果・来年度以降

1 評価・反省点

要 点

- ・地域で活動している団体と協力して開催することは、参加者数の面でも地域団体の活動支援の意味でも意義がある。
- ・地域づくりを意識して3回連続講座を計画したが、実施した講座の内容と、対象者が参加したいと思う内容との間ではミスマッチがあったのではないか。広報活動についてはいつも以上に展開したと思われるので、もっと、楽しそう・行ってみようと思う事業計画が必要だったのではないか。

2 来年度及び今後の方向性について

要 点

- ・今回一緒に企画を考えていただき協力いただいた地元の活動団体からは、普段市民館には行かないので、このように出張講座を開いてくれることは良いことでやって欲しいと、複数の団体から意見をいただいたので、アウトリーチ自体の必要性はある。市民館や区役所の部署のほかの取組のPRにもなる。

- ・実施する企画は、地域づくりは大切だが参加してもらわなければ始まらない。
- ・地域で活動している団体と連携することで、団体間のつながりができることでの今後の活動の発展など、地域活動の底上げの一助になる可能性もある。一方で、連携団体へのあいさつや団体からある程度の信頼獲得など、コミュニケーションをしっかりとることが必要になってくる。
- ・いつも講座を開催している市民館とは、会場の広さ、置いてある機材、会場代など色々な面で違いがあるので、実施する会場の関係者ともコミュニケーションをしっかりと取る。
- ・多摩区内でも地区によって、課題・連携団体・会場などが様々であることが想定されるので、来年度は、ほかの地区で「出張多摩市民館」を開催してはどうか。例えば、今回の企画を計画する中での区役所の部署とのヒアリングで、稲田地区(宿河原・堰・長尾)の子育て支援の取組みについての状況を話していたので、地域みまもり支援センターと相談しながら稲田地区などで出前講座を開設してもいいのではないか。

IV まとめ

部会長 高梨 宏子^{こうこ}



あなたの思いを多摩区の学びに

令和6年度 多摩市民館 市民自主学級・市民自主企画事業 企画案 募集のご案内



「多摩区にこんな学びの場があったらいいな……」「こういう企画を実施してほしい！」など、みなさんの「思い」や「アイデア」を 多摩市民館と一緒に 実現してみませんか。



企画提案って、
どうすればいいの？

主なスケジュールは次のとおり
です。詳しくは、中面をお読み
ください。



事前相談から実施決定（企画提案）までの流れ

① 企画提案の相談

- 「市民自主学級・市民自主企画事業」の目的や企画提案に必要な書類を確認し、やりたいことをイメージにしてふくらませましょう。
書類の書き方だけでなく、提案や要望の内容をどのようにまとめたらいいのかなど、どんな些細なことでも構いませんので、お気軽にご相談ください。
(ご相談は、電話☎044-935-3333・リモートでもお受けします。)

相談期間：12/1（金）～1/19（金）

※12/16（土）、18（月）、12/29～1/3、1/15（月）の休館日を除く
8時30分～12時、13時～17時

臨時相談会の開催 1/6（土）14時～16時 第1学習室（多摩市民館5F）

- 時間中担当者が会議室におりますので、いつでもお越しください。

② 企画提案書類の提出

受付期間：1/5（金）～1/19（金）※土・日もどうぞ！
(ただし、1/15（月）の休館日を除く)

8時30分～12時、13時～17時

- 受付期間内に企画提案用紙に添付書類を添えて、持参か郵送かメールで多摩市民館（多摩区総合庁舎 2F市民館事務室）へ提出してください。

③ 企画提案会に参加

2/18（日）市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会
：13時～17時頃 多摩市民館4F 会議室

必ずご出席
ください。

- 企画提案会では、提案団体ごとに5分間の事業のプレゼンテーションをしていただき、質疑応答を行います。その後開催される市社会教育委員会議多摩市民館専門部会で、令和6年度に多摩市民館で実施する企画案を選考します。その後、3月の社会教育委員会議で承認を得ます。



令和6年度の市民自主学級・市民自主企画事業が決定！



具体的に、どうすればいいの？

★ だれが応募できるの？

- **グループ提案** … 会員が5人以上の主に多摩区を活動場所とする市民グループが企画提案できます。
- **個人提案** … 多摩区に在住、在勤、在学の方なら、ひとりでも提案することができます。(企画案の実施が決まったら、企画運営委員を公募します。※5人以上の応募者が必要です。)

※こういう学びの場があったら…と考えていることがありましたら
お気軽に職員までお問合せください。

★ そもそも、市民自主学級・市民自主企画事業って、何？

●地域や社会の課題などの解決に向けた市民の学習の場づくりを、市民と行政が協働して実施する学級・企画事業です。市民（個人またはグループ）から学級や企画事業の企画案を募集し、市民のみなさんに主体的に企画・運営に関わっていただく中で、市民の生涯学習・市民活動を推進し、地域づくりへの参画を図ることをめざして実施するものです。

- **市民自主学級** … 同じ学習者が継続的な学習を通して、様々な地域課題の解決をめざす学習の場です。おおむね1回2時間程度の学習を、短期学級では5～9回、長期学級では10～15回開催します。保育つきの学級を開催することもできます。
- **市民自主企画事業** … 単発のイベント（交流会・発表会・展示会・シンポジウム・フォーラム・見学会・鑑賞会など）、マップ作成、調査研究、それらを組み合わせたもの等、自由な発想を生かし、地域課題などを共有して課題の解決をめざします。

★ 地域課題の解決って、何となく難しそう……

●では、みなさんが住んでいる地域にとって必要な学びを探してみましょう！
いま、地域で問題になっていることには、どんなことがありますか？

例えば…

- 子育て…子どもの成長・心理・食育・栄養、仲間づくり、乳幼児期の親子支援
- 環境…自然保護、里地里山の保全、ゴミ、多摩川等の河川、消費社会、資源の再利用
- まちづくり…人のネットワーク、住民自治・参画、道路等都市形成、交通問題、防災問題
- 青少年、障がい者、外国人…子どもの居場所、障がい者支援活動、国際交流
- 人権…男女平等、平和、偏見・差別、虐待
- 文化・芸術活動…伝統文化継承、創作活動、地域の郷土史
- その他…少子高齢社会、シニア・男性の地域活動、まち歩き、都市農業

多摩区の特徴や地域の特性を生かした魅力ある事業を求めています。



●まだ他にもいろいろな課題が考えられます。
みなさんの自由な発想を生かした企画を提案してください。

市民館と協働で行う事業であり、グループへの助成金ではありません。



★ 企画案は、どのようにつくればいいのか？

●学びの場をつくるためには、どんな意図（目的・ねらい）で、いつ、どこで、誰に、何を、どのような方法で提供するのか？を明確にしておく必要があります。まず、みなさんのアイデアを企画書（企画提案用紙）に書いてみましょう。

Point 1 市民自主学級にしますか？ 市民自主企画事業にしますか？

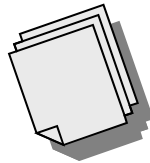
継続学習の学級か、自由な取り組みで行う企画事業か、学習内容によって、どちらで企画提案するかを検討しましょう。

Point 2 企画意図を明確にしましょう。

なぜこの企画を提案するのか、この企画で取り上げた地域の課題は何か、地域に必要な学びの場は何なのかを簡潔にまとめます。

Point 3 テーマ・内容・方法・講師・開催時期・場所・対象・予算などを考えましょう。

地域の課題解決につながるように、おおまかな学習内容・事業内容を考えます。（まだ企画の段階ですから、大体こんな学習をしたいというおおまかな内容で結構です。）



企画書の完成



必要書類を添えて、多摩市民館へ
締め切りは、1月19日（金）17時です。



わからないことが
ありましたら、お気軽に
多摩市民館の職員にご相談
ください。

★ 企画提案会では、どんなことをするのか？

企画提案会には、企画の提案者と社会教育委員会多摩市民館専門部会委員（以下「委員」という。）、市民館職員が参加します。（誰でも傍聴することはできますが、傍聴者は発言することはできません。）

企画提案会では、どのような企画を実施したいのかをプレゼンテーションしてください。あなたの「思い」や「アイデア」を学びのかたちにする場です。

プレゼンテーションは少し緊張するかもしれませんが、「教育文化会館・市民館・分館 市民自主学級・市民自主企画事業 企画提案に向けてのポイント」を参考に、「今、多摩区にとって必要な学びは何か」を提案してください。その後、提案者と委員、市民館職員の間で質疑応答を行います。

なお、企画提案会にはグループ提案の場合はメンバーからどなたか1名、個人提案の場合は提案者本人が必ず出席してください。出席がなかった場合は、提案を辞退したものとみなします。

★ 選考はどのように行われるのか？

企画提案会後に開催される市社会教育委員会多摩市民館専門部会（非公開）において、企画提案書に基づき、企画提案会でのプレゼンテーション、質疑応答を参考に「今、多摩区にとって必要な学びは何か」を協議し、令和6年度に実施する企画案を選考します。

その後、市社会教育委員会協議の承認を得て、提案事業の実施を決定します。

企画提案会は、2月18日（日）

13時～17時（この時間中の約30分間）です。



【企画案の実施が決定したら、次の手順で進めていきます。】

- ① 「事務説明会」に参加、担当職員との顔合わせ
- ② 学習プログラムなど事業内容についての話し合い、下準備（部屋取り・講師交渉など）
- ③ 計画書類（事業計画書など）や入札書類（請書・見積書など）の作成、事業経費の受領
- ⑤ 市民自主学級・市民自主企画事業の準備（広報・講師への依頼状など）
- ⑥ 市民自主学級・市民自主企画事業の実施
- ⑦ 報告書類（事業報告書・収支決算書など）の作成、事業経費の精算
- ⑧ 年度末の「市民自主学級・自主企画事業報告会」に参加

（参考） 令和5年度 多摩市民館 市民自主学級・市民自主企画事業 一覧

令和5年度に実施した市民自主学級・自主企画事業のグループの皆さんからの報告会が2/10（土）13時（予定）から多摩市民館で行われます。特に初めて企画提案をされる方は、ぜひ、参考になさってください。

	事業名・テーマまたは主な内容・実施時期・回数等	実施団体名
市民自主企画事業	<p><u>交流の場・居場所&活動・学び合いの場としての コミュニティーカフェ＝ふらっとカフェ運営</u></p> <p>高齢者の5人に一人が一人暮らし。若い層にも単身世帯が比較的多いのが多摩区。そうした地域の中で人と人との安心してつながることができ、交流できる場・地域の居場所、さらにお互いの活動・学びの場としてふらっとカフェを運営する。</p> <p>定例 ≪5月から原則毎月第1火曜日≫ トピック講座 ≪令和5年10月3日（火）、11月7日（火）、 令和6年2月6日（火）≫</p>	ふらっとカフェを広める会
市民自主企画事業	<p><u>音のアートワークショップ：オトナリの音</u></p> <p>市民参加型アートプロジェクトを企画し、地域の方の表現したいという声を収集し、何かを表現したいという人をサポートし、豊かな文化的交流の場を創出したいと考えている。</p> <p>≪令和5年10月15日（日）～12月10日（日） 全5回≫</p>	TAMA VOICES